

浴衣姿で賑わう、ゆかたまつり(2017年のゆかたまつりから)(写真上)。昨年の大学祭実行委員会のメンバー(写真下)。



ゆかたまつり・大学祭で
地域の笑顔を支えたっ。

2つの大学祭を運営

夏気分味わえるゆかたまつり 広島の顔になる秋の大学祭に

第68回大学祭実行委員会委員長
福地 翔太さん

栃木県出身。県立の栃木高校卒。「発酵工学の研究がしたい」と広島大工学部3類に入学。高校時代は生徒会に所属。バンド活動にも取り組む。将来の夢はエンジニア。

■ゆかたまつり

夏の大学祭と位置付けているのが、ゆかたまつりです。今年は6月30日に総合科学部周辺で行います。テーマは「涼風薫る夏の始まり」。30を超える模擬店が出店され、スペイン広場の特設ステージでは、サークルのバンド演奏やダンスパフォーマンスなどが繰り広げられます。実行委員会では、ヨーヨーすくいなど子どもたちを対象にした縁日など企画しています。

西条の夏のはじまりを告げる、ゆかたまつりも今年で24回目。多くの市民に夏気分を味わってほしい、と思っています。

■秋の大学祭

大学祭実行委員会ではメインのイベント。今年は11月2日と3日に開催します。これまで地域密着型の大学祭として運営してきましたが、今年は地域を広島市域まで広げ、広島の顔

となるような大学祭に、と思っています。広島市の企業にも声を掛け、ブースを出展してもらう予定です。

大学祭と同時開催する、教育学部が子ども向けに仕掛けるE-Storm祭りなどと連携させながら広島大のエネルギーを発信するイベントにしていきたいと思います。今年は昨年よりも花火の打ち上げに予算を掛けます。秋の花火は澄んだ空気に光が映え、毎年人気を集めています。

■入会の動機

高校時代、生徒会役員をしていたことが決め手になりました。いろいろな人と関わったことが僕の財産になり、「大学でも多くの人と交流できるサークルに入り、何らかの形で周囲の学生やお客さんを笑顔にしたい」と、昨年4月に入会しました。出身が栃木県で、広島での生活は初めて。せっかく広島にやってきたので、広島を盛り上

げたい、という思いもありました。

■大学祭実行委員会

1、2年生中心に約150人の学生が集まり組織しています。渉外、広報など多くの部署に分かれていて、それぞれに役割分担を決めて取り組んでいます。みんな2つの部署を掛け持ちしなければいけないので、毎日休む間もなく活動しています。

■得たこと

企画を一から立ち上げ具現化していくのが、大学祭実行委員会の仕事です。昨年、1年間経験してみて、考える力が身に付いたかな、と感じています。僕は工学部の学生ですから、研究の際に考える力は不可欠になります。もう一つ、将来、研究を世の中のために役立てたい思いがあり、常に相手(学生や市民)の立場で考える大学祭実行打撃会の経験は、生かされると思っています。